



美しい 県土づくりNEWS

2014年
12月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 125 号
平成 26 年 12 月 26 日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 一般国道 340 号立丸峠工区の工事が進んでいます！
- 4 「いわて建設業みらいフォーラム」を開催しました
- 5 優良工事 20 件を表彰
- 7 岩手県まちづくりセミナーを開催しました
- 8 平成 26 年度汚水処理連携セミナーを開催しました！
- 10 第 11 回土木合同セミナーを開催しました！
- 11 全国多自然川づくり会議にて事例発表しました
- 12 いわて花巻空港冬季台湾プログラムチャーター便運航決定!!

いわて花巻空港 FDA名古屋線 利用者30万人到達!!

～ 就航から3年半、たくさんの方にご利用いただきました ～

平成 26 年 11 月 20 日（木）に㈱フジドリームエアラインズ（FDA）が運航する「いわて花巻⇄名古屋小牧」線の利用者が 30 万人を達成しました。これを記念して、いわて花巻空港において記念セレモニーを開催し、30 万人目のお客様に記念品として飛行機の模型と花束を贈呈しました。

同路線は、東日本大震災津波により甚大な被害を受けた東北地方の復興支援の一環として、平成 23 年 5 月 21 日に就航しました。翌年の平成 24 年 3 月 25 日からは 1 日 2 往復に増便、さらに現在は 1 日 3 往復となり、日帰りのビジネス利用などでの利便性が向上しています。

県では、今後も路線の定着と更なる利用促進に取り組んでいきます。



記念セレモニーの様子



FDA の機体

《現在の運航ダイヤ（2014.10.26～2015.3.28）》

花巻発		名古屋着	名古屋発		花巻着
09 : 15	⇒	10 : 40	07 : 35	⇒	08 : 45
15 : 55	⇒	17 : 20	14 : 15	⇒	15 : 25
18 : 50	⇒	20 : 15	17 : 10	⇒	18 : 20

名古屋まで最短
75 分！
毎日 3 往復で運
航中です。
ぜひ、ご利用く
ださい。



【復興支援道路】

一般国道 340 号立丸峠工区の工事が進んでいます！

～ つなごう！復興のために 進もう！復興のその先へ ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

1 (仮称)小峠トンネル築造工事の現場見学会を開催

県が「復興支援道路」として遠野市恩徳～宮古市小国間で整備を進めている一般国道 340 号立丸峠工区については、平成 26 年 8 月 12 日に着工式を開催し、現在、(仮称)小峠トンネル(L=920m)の掘削工事を進めているところです(H26.12.25 時点で約 390m まで掘削)。

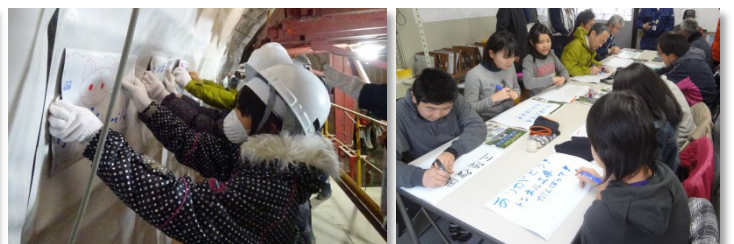
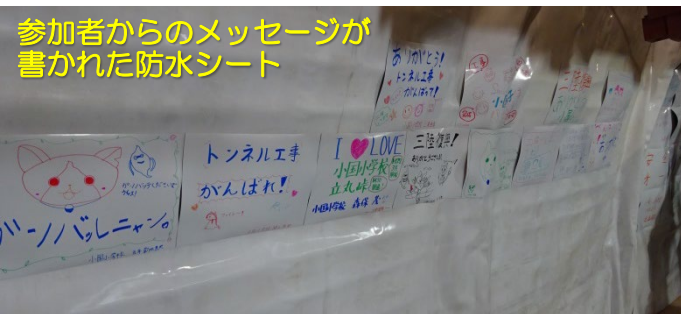
今般、順調に工事が進捗し、安全にトンネル工事現場を見学できる状況になったことから、平成 26 年 12 月 11 日に小峠トンネル築造工事の現場見学会を開催しました。

現場見学会には、宮古市立小国小学校児童や地元住民の皆さんなど約 30 名が参加し、トンネル掘削機械・設備やトンネル掘削工事の最前線の状況を間近で見学していただいたほか、参加者の皆さんにはトンネル内部に設置する防水シートに「復興への想い」や「立丸峠工区開通への想い」などのメッセージを書き、トンネル内部に直接張りつけていただきました。

参加者の皆さんからは、「ありがとう！トンネル工事ががんばって！」、「トンネル完成楽しみにしています」などのトンネル工事に対するエールや、「半世紀の願い 今ここに現る」、「先祖の願い叶う！ありがとう」などの道路整備に対する地元の熱い想いを感じるメッセージをたくさんいただきました。参加者の皆さんに書いていただいたメッセージ入りの防水シートは、トンネル工事が進むとコンクリートに覆われて見えなくなってしまうかもしれませんが、これからもずっとトンネルの中に残り続けます。

また、12 月 25 日のクリスマスには、現場見学会に参加した小国小学校児童の皆さんから感謝を込めた寄せ書きが届きました。現場へのとても嬉しいクリスマスプレゼントとなりました。

県では、この地元の皆さんの「想い」を感じながら、一日も早い完成に向けて、安全に万全を期し、全力で工事を推進していきます。なお、現場見学会の希望がある場合は、宮古土木センター道路整備課道路整備チームまで御連絡ください(TEL:0193-64-2221(内線387))。



小国小学校児童からのクリスマスプレゼント

2 新田（しんでん）工区の供用を開始

立丸峠工区（5.21km）のうち、宮古市小国の新田工区（0.25km）については、一般国道340号の急カーブ区間を解消するため、平成26年7月から工事着手し、本格的な降雪前の供用開始を目指して工事を進め、平成26年12月19日に供用を開始しました。

今後は、平成28年度の小峠工区の供用開始を目指して（仮称）小峠トンネルの工事を推進するとともに、（仮称）大峠トンネルについても平成26年度中に工事着手する予定としており、平成30年度の全線供用に向けて工事を推進していきます。

新田工区 起点側（遠野側）



新田工区 終点側（宮古側）

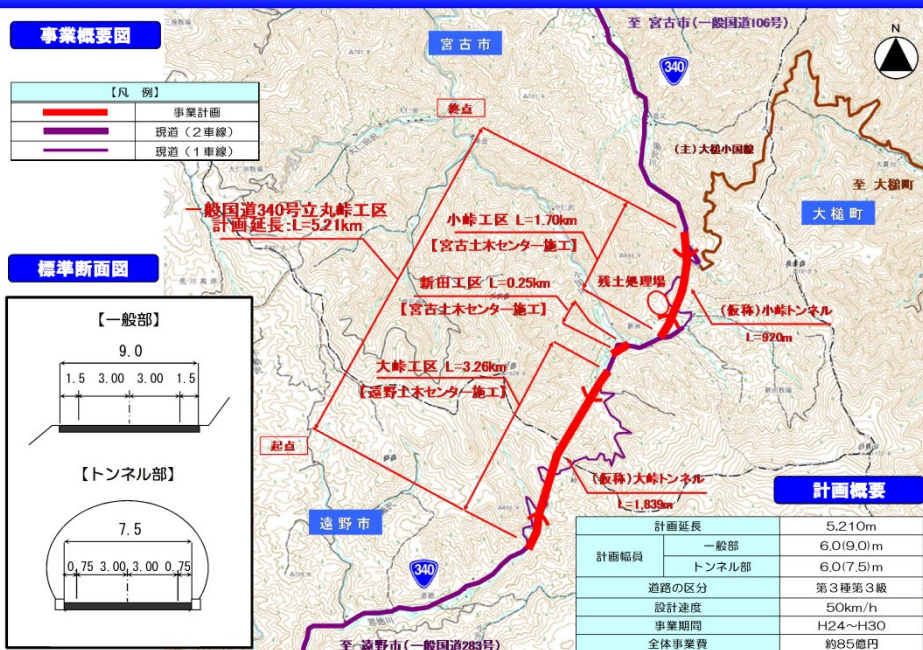


【立丸峠工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。

一般国道340号立丸峠工区は、三陸復興道路整備事業の「復興支援道路」に位置付け、県が重点的に整備を進めています。

一般国道340号立丸峠工区の事業概要



優良工事 20 件を表彰

～ 優良県営建設工事表彰 ・ 優良下請負企業表彰 ～

建設技術振興課

平成 26 年 12 月 18 日、盛岡地区合同庁舎で平成 26 年度「優良県営建設工事表彰」と「優良下請負企業表彰」を行いました。

「優良県営建設工事表彰」は、建設業の健全な発展とその施工技術の向上に資することを目的として、昭和 57 年度から実施しているもので、今回で 33 回目となります。

今回は、平成 25 年度に完成した、税込請負額 1,000 万円以上で、かつ工事成績評点 85 点以上の県営建設工事を審査対象とし、各工事発注公所等からの推薦を受けて、優良県営建設工事表彰審査会（庁内委員と外部有識者で構成）において審査され、「総合的に工事成績が良好で他の模範となる県営建設工事」と認められた **20 工事 19 者**が受賞企業として選定されました。

「優良下請負企業表彰」は、県内建設業者の施工技術の向上による公共工事の品質確保及び健全な元請下請関係の構築を目的として、平成 21 年度から実施しているもので、今回で 6 回目となります。

審査対象は、「優良県営建設工事表彰」の対象工事を施工し、今年度の受賞企業として内定した元請負企業から推薦のあった下請負企業です。庁内審査及び優良県営建設工事表彰審査会における審査を経て、**9 工事 9 者**が受賞企業として選定されました。

表彰式には、受賞企業の代表者のほか、工事発注公所等の担当者も多数出席し、受賞企業の優れた業績をたたえました。

知事式辞（千葉副知事代読）



受賞者代表による謝辞



記念撮影（優良県営建設工事表彰受賞者）



記念撮影（優良下請負企業表彰受賞者）



【受賞企業・工事一覧】

部門	優良県営建設工事 表彰企業	優良下請負企業	表彰工事名
土木	宇部建設(株)	—	経営体育成基盤整備事業日形地区第10号工事
土木	(株)大久保建設	—	一般国道106号柳橋ほか橋梁補修工事
土木	(株)小田島組	(有)興建	経営体育成基盤整備事業都鳥3期地区第6号工事
土木	(株)小田島組	—	経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区第11号工事
土木	(株)小原建設	—	経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区第9号工事
土木	(株)かばら建設	—	森林管理道平野原線(第2工区)開設工事
土木	(株)佐賀組	—	大船渡港山口地区港湾災害復旧(23災79、80、81、82号)工事
土木	(有)澤里土木工業	—	主要地方道岩泉平井賀普代線羅賀地区道路災害復旧(23災329号)工事
土木	三陸土建(株)	エース施工開発(株)	主要地方道盛岡和賀線飯岡工区道路改良(その3)工事
土木	昭栄建設(株)	—	集落基盤整備事業(地域用水型)鹿妻新堰地区第3号工事
土木	進栄建設(株)	—	市道尿前槻木平線若柳地区道路改良(その2)工事
土木	中央建設(株)	—	一般国道397号滝ノ沢橋橋梁補修工事
土木	(株)中館建設	(株)青岩建設	市道役場線浄法寺大橋(仮称)下部工工事
舗装	岡崎建設(株)	ロードワークス(株)	一般県道志和石鳥谷線片寄地区道路災害復旧(24災69号)工事
法面処理	県北緑化(有)	—	一般県道安家玉川線茂井地区ほか道路災害防除工事
法面処理	鈴木工材(株)	(株)岩淵建設	一般国道457号中大桑地区道路災害復旧(23災302号)工事
法面処理	(株)山下組	(株)岩手マイタック	森林基幹道八戸川内線法面その1工事
建築一式	樋下建設(株)	(株)金澤鋼業	災害復興公営住宅(釜石市平田地区)新築2工区(建築)工事
電気設備	(株)電友社	(有)県電	岩手県立大東病院管理棟増築ほか(電気設備)工事
管設備	(株)盛福水道工業	(有)佐々国工業	県営松園アパート(12号棟)リフレッシュ(機械設備)工事

岩手県まちづくりセミナー

～人口減少社会に対応した都市づくり～

を開催しました。

都市計画課

人口減少や少子高齢化が進行する時代において、都市機能を効率的に持続させるため、これまでの拡大する都市づくりからコンパクトな都市づくりへの政策転換が求められています。

このセミナーは、低密度化・縮小化が進む都市をどのように維持し効率化させるかを考え、地域にあった新たな政策展開や都市づくりへの参考としていただくため、県と市町村の都市計画担当者を対象に開催したものです。

- 1 開催日時 平成26年11月25日(火) 13時30分～17時00分
- 2 開催場所 マリオス 18階 188会議室
- 3 実施主体 都市計画課・岩手県都市計画協会(共催)

講演1

拡張しない時代の持続可能な地方都市のまちづくり ～縮小しつつ質を高める～

講師 名城大学都市情報学部 教授 海道 清信 様

海道様は、かつて地域振興整備公団(現UR都市機構)の職員として、盛岡市の盛南開発にも携わっておられ、現在はコンパクトシティの第一人者として、各方面で講演を行うなどご活躍されています。

今回はコンパクトシティの意義や空き家の活用事例、集約型都市構造のイメージなどについて、他自治体や諸外国の事例を交え、専門的なお立場からご講演いただきました。



講演2

コンパクトシティに関連する諸制度 ～改正都市再生特別措置法等について～

講師 国土交通省都市局都市計画課 都市計画調査室 都市機能係長 清水 一大 様



清水様は、国土交通省都市局都市計画課において、立地適正化計画の活用などに携わっておられます。

コンパクトシティに向けた取組みを考える上で必要な各種制度について、ご講演いただきました。

平成26年度汚水処理連携セミナーを開催しました！

下水環境課

平成26年11月26日(水)エスポワールいわて(2階大中ホール)において、県内各自治体の担当者や関係団体の職員約90名の参加をいただき「平成26年度汚水処理連携セミナー」を開催しました。

本セミナーは、「いわて汚水処理ビジョン2010^{*1}」に掲げる各施策の目標達成のため、行政と関係機関が連携し、汚水処理事業に関して効率的かつ適正な整備、運営管理手法や課題解決などの情報共有を図ることを目的に平成14年度から汚水処理関係機関^{*2}が合同で開催しているものです。

岩手県では、平成26年1月に国が策定した「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」^{*3}に従い、今後整備構想の基本となる各市町村の汚水処理計画の見直し等の作業を進めています。これらの背景や取組事例について理解を深めていただくため、「市町村の汚水処理計画の見直しと新都道府県構想マニュアル」をテーマとし、都道府県構想マニュアル策定検討委員会である紫波町建設部下水道課長の石川和広氏の基調講演のほか、盛岡市、秋田県、湯沢市の取組みを事例発表していただきました。



主催者代表挨拶
(公財)岩手下水道公社 若林理事長

【基調講演】「新都道府県構想マニュアル策定の狙いと検討委員会における議論」 紫波町建設部下水道課長 石川 和広 氏

紫波町の石川下水道課長からは、紫波町のこれまでの汚水処理事業への取り組みと検討委員となった経緯、そして都道府県構想マニュアルの検討委員会での議論等について説明がありました。

「汚水処理施設整備構想」の見直しを要請することとなった背景や、検討委員会での議論の展開を含めた説明がされ、都道府県構想マニュアルの理解が深まる有意義な講演内容でした。



【事例発表①】「盛岡市汚水処理基本計画の策定を目指して」 盛岡市 上下水道局 下水道整備課 主査 藤原 温 氏

盛岡市の藤原主査からは、盛岡市の汚水処理基本計画の策定を目指した取り組み内容について発表がありました。

検討の流れ、検討手法や実際の検討例の紹介があり、これから汚水処理基本計画の見直しを進める自治体にとって、具体的で非常に参考となる内容でした。



【事例発表②】「秋田県における都道府県構想の見直しについて」

秋田県 建設部 下水道課 調整・環境整備班 班長 工藤 利一 氏

秋田県の工藤班長からは、秋田県の汚水処理施設整備構想の見直しについて発表されました。

複数の自治体がモデル都市として、国土交通省・秋田県と協力しながら汚水処理計画区域の見直しに先行して着手していること、処理区の統合や汚泥の共同処理等、効率的かつ持続的な事業運営に向けた取り組みについて検討を進めていること等の説明があり、汚水処理事業のあるべき姿について考える機会となる中身の濃い内容でした。



【事例発表③】「新たな湯沢市生活排水処理整備構想策定について」

秋田県湯沢市 上下水道部 下水道課 工務施設班 参事兼班長 泉 晴夫 氏
主幹 高橋 誠 氏

湯沢市の泉参事及び高橋主幹からは、国土交通省のモデル都市として進めている汚水処理計画区域の見直し作業について、具体的な検討方法の説明がありました。

湯沢市が直面する人口減少については、岩手県内でも同様の悩みを持つ自治体は多く、将来的な人口減少を踏まえた経済比較（施設選定）事例などは、これから検討を進める自治体にとって大きなヒントとなる内容でした。



【用語解説】

※1 「いわて汚水処理ビジョン2010」とは？

汚水処理施設の普及にあたり、地域ごとに整備の手法（下水道、集落排水施設、浄化槽など）や計画を定めた汚水処理に関する県構想で、平成23年2月に策定しています。

本ビジョンでは、平成30年度を目標年次として、水洗化人口の割合や中期経営計画の策定、浸水被害の軽減などの目標を掲げております。

※2 「汚水処理関係機関」とは？

- 公益財団法人岩手県下水道公社
- 岩手県土地改良事業団体連合会
- 公益社団法人岩手県浄化槽協会
- 岩手県汚水適正処理推進会議（事務局：岩手県県土整備部下水環境課）

※3 「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」とは？

人口減少や厳しい財政事情等を踏まえ、効率的な汚水処理施設の整備・運営管理を計画的に実施していくため都道府県構想の見直しを図る必要があることから、汚水処理を所管する国土交通省、農林水産省、環境省の3省が統一して作成した初のマニュアル。マニュアルでは、都道府県が市町村と連携して策定する都道府県構想の具体的な内容として、下水道の集合処理で整備する区域と浄化槽等の個別処理で整備する区域分け等が示された。

都道府県構想策定マニュアルの主なポイントは以下のとおり。

- 汚水処理施設の整備区域の設定にあたり、早期に整備を概成させる等の時間軸等の観点盛り込まれた。
- 持続可能な汚水処理の運営を行うため、未整備区域の整備手法だけでなく長期的（20～30年程度）な時間軸の観点から既整備地区の効率的な改築・更新や運営管理手法についても併せて検討することとされた。

第11回土木合同セミナーを開催しました！

テーマ『「安全・安心」を求めて～復興と土砂災害を考える～』

土木合同セミナー実行委員会事務局 盛岡広域振興局土木部

平成26年12月9日（火）、エスポワールいわてにおいて土木合同セミナー実行委員会（盛岡広域振興局土木部等6団体で構成）が主催の「第11回土木合同セミナー」を開催しました。

11回目を数える今年度のテーマは『「安全・安心」を求めて～復興と土砂災害を考える～』。

被災地で本格化してきた復興まちづくりの現状と課題を理解し、業界の枠を超えて復旧・復興に取り組んでいくこと、並びに、今夏、全国で頻発した土砂災害について、発生原因や仕組みを理解し今後の防災に備えること等を目的として「土砂災害」と「復興まちづくり」をテーマに講演が行われました。

【講演】

- ① 「地域と共に創り上げる土砂災害からの減災を目指して」
岩手大学農学部教授 井良沢 道也 氏
- ② 東日本大震災 復興まちづくりにおけるURの取組みについて」
UR都市機構 岩手震災復興支援本部長 森本 剛 氏



【講演①】講師 岩手大学農学部教授 井良沢道也 氏

井良沢氏からは、広島市の土砂災害をはじめとした全国の発生事例、土砂災害からの減災を図るための取組み事例、緩衝空間の創出による環境保全等について講演をいただきました。

近年の土砂災害の傾向は、流木を含んだ土石流による被害が多く、被害を増大化していると指摘。これは時間雨量が多い場合、斜面の深層崩壊等が発生しているためであり、木が生長すると急斜面では安定度が落ちることから、土砂災害防止法に基づくゾーン設定では、森林の成長を考慮して設定した方が良いとの提言がありました。

また、自然空間と生活空間の間に緩衝空間を創出し、空間的な余裕を利用して自然災害からの安全性確保や環境保全に繋げていって欲しいと述べられました。



岩手大学農学部 井良沢教授

【講演②】講師 UR都市機構岩手震災復興支援本部長 森本剛 氏

森本氏からは、「東日本大震災 復興まちづくりにおけるURの取組みについて」と題して、東日本大震災におけるURの取組み、現在進められている復興まちづくり事業及び災害公営住宅整備の進捗状況並びに今後の目標と課題について講演をいただきました。

現在URが受託する復興事業は、土地区画整理事業が全箇所約9割、災害公営住宅については約2割を占めているが、時間の制約、資材等の確保及び膨大な業務量がある中で、事業の加速化が図られているのはCM方式の実施によることが大きいと説明がありました。

また、事業推進上の課題として、権利者の理解・協力・合意が必要不可欠であることや、円滑な施工体制の確保並びに復興集中期間を延長し必要な事業費を確保することなどが必要と述べられました。



UR都市機構岩手震災復興支援本部
森本本部長

全国多自然川づくり会議にて事例発表しました

～一級河川雫石川河川等災害関連事業における多自然川づくりの取り組み～

盛岡広域振興局土木部災害復旧対策課

12月4日、5日に埼玉県さいたま市にて開催された『全国多自然川づくり会議』において、『一級河川雫石川御明神小赤沢地区河川等災害関連事業』*における多自然川づくりの取り組み事例（詳細設計・発注段階）を発表しました。

※一級河川雫石川御明神小赤沢地区河川等災害関連事業

平成25年8月9日豪雨により大きな洪水被害を受けた、岩手郡雫石町御明神小赤沢地内において、被災箇所を原型復旧に併せて、上下流の河道掘削や護岸整備などの河川改修を行うことによって被災原因の除去を図るものです。

来年度（平成27年度）の事業完了を目標として、鋭意、事業を進めています。

<事業概要・進捗については盛岡広域振興局土木部ホームページをご覧ください！>
<http://www.pref.iwate.jp/morioka/doboku/15406/index.html>

この会議は、国・都道府県・政令指定都市の職員を対象に、多自然川づくりに対する知見の蓄積や意識の向上を目的として毎年開催されている会議であり、11月4日に開催された東北地区ブロック会議において最優秀賞を受賞したことから、東北地区の代表事例として発表したものです。



東北地区ブロック会議での発表の様子

今回は**詳細設計・発注時の取り組み事例**として、雫石川の豊富な自然環境及び景観を活かすために予定している**①河畔林保全、②親水施設計画、③護岸ブロック選定、④河岸・水際部の処理方針**についての具体的な取り組み事例を発表し、コメントーターの先生方からは、示唆に富んだ意見や助言を数多く頂きました。



雫石川が有する自然環境・景観

今回の発表事例は、豪雨災害による被災箇所の復旧に起因する事業での取り組みであり、地域の皆さんが期待する“早期完成”を図ることが大命題となりますが、今回頂いた助言等を参考にしながら、限られた時間の中で様々な取り組みを進め、雫石川が有する豊富な自然環境や自然景観を活かした川づくりを推進していきます。



いわて花巻空港 冬季台湾プログラムチャーター便運航決定!!

～ 昨年に引き続き、冬も台湾からのインバウンドチャーター便が運航 ～

空港課

この度、平成27年1月17日から2月22日の期間で、台湾からの冬季プログラムチャーター便*の運航が決定しました。

今回のプログラムチャーター便は、台湾からの観光客を対象としたチャーター便で、本県でのスキーツアーや観光地などを巡る周遊型のツアーが実施される予定です。冬季間のプログラムチャーター便は昨年度に続いて2年連続で、台湾からの多くのお客様に岩手の冬の魅力を満喫していただいています。

県では、今後も引き続き、利用促進及び誘致促進活動に積極的に取り組みます。

※ プログラムチャーター便：一定期間に連続して運航されるチャーター便のこと

【冬季プログラムチャーター便の概要】

運航会社：チャイナエアライン（中華航空）

運航機材：ボーイング737-800型

運航便数：18便

【内訳】

平成27年1月17日(土)、1月21日(水)、1月25日(日)、1月29日(木)、
2月2日(月)、2月6日(金)、2月10日(火)、2月14日(土)、2月18日(水)、
2月22日(日)

運航時間：

区 間	出発時間（現地時間）	到着時間（現地時間）
台湾桃園／花巻	6：00	10：15
花巻／台湾桃園	11：45	15：10

運航形態：外国人チャーター（台湾からの観光客を対象としたプログラムチャーター）

特記事項：本チャーター便は、本県でのスキーツアーを主体として編成されていること。



皆さんで台湾からのお客様を
“おもてなし”しましょう！